

Rotary Club of

Kawagoe

Rotary

イマジン
ロータリー国際ロータリー第2570地区
川越ロータリークラブ会報

vol. 08

会員数 101名 | 免除出席者 3名 | 正会員出席者 53名 | ZOOM出席者 5名 | 出席者 61名 | 早退 0名 | 出席率 62.24%

プログラム

点鐘(12:30)／ロータリーソング(手に手つないで・R-O-T-A-R-Y)／ビジター・お客様紹介／卓話講師紹介／会長の時間／幹事報告／委員長報告／ニコニコボックス／出席報告／卓話／点鐘(13:30)〈司会:島村拓史SAA〉

会長の時間

2022-23年度 会長 石井成人

《ビジター・お客様紹介》

橋本和久様、星野晃一郎様(大宮 RC)

鳥居由美子様(所沢 RC)

《卓話講師紹介》

渡部カンコロンゴ清花様(NPO 法人 WELgee 代表)

《会長挨拶》



皆さんこんにちは。8月26日(金)に川越市スナッグゴルフ大会(Kawagoe Future Cup)の表彰式が、川越市役所で行われました。川越 RC が後援し優勝カップを作成し、優勝チームの山田小学校にお渡ししました。この大会を機に、川越のゴルフへの関心が高まり、将来プロゴルファーが誕生することを夢に見たいと思います。

8月27日、28日に、職業・社会奉仕委員会事業の、「武蔵てらこやの夏合宿」事業が、養持院で開催されました。2年間のブランクがあって、新しい体制でのスタートのため、参加者は少なかったですが、農業体験や、金剛住職のお話や、本堂での宿泊、料理の実習等、大学生の皆さんも、これからいろいろと企画を練って活動をすすめていきますので、メンバーの皆様も、ご協力よろしくお祈りします。三共木工の森田様、岩堀パスト会長ありがとうございました。

8月もあと2日。9月1日は「防災の日」です。今年は東北、北陸、九州などで、震度5以上の地震が相次いで発生しています。また、7月12日には、埼玉県では、1日に9回もの記録的短時間大雨警報が出され、鳩山町では3時間に263.5ミリという、観測史上1位の豪雨を記録しました。幸い人的被害はありませんでしたが、がけ崩れ等の被害に見舞われました。その他にも、桜島の噴火や、各地で大雨等の自然災害が発生しています。また、暑さのために、熱中症による死亡者も増えています。そして、コロナ感染者も相変わらず、いつ収束するか見えない状況です。

「防災の日」のきっかけとなった関東大震災は、1923年(大正12年)9月1日、11時58分32秒に、南関東を中心に発生した巨大地震で、マグニチュード7.9、死者・行方不明者は推定で10万5千人、神奈川・東京を中心に被災し、昼食時で七輪等火を使用していたための、火災により逃げ遅れ、多

くの死者が出たそうです。ちなみに、東日本大震災はマグニチュード9.0、死者・行方不明者は18,425名です。

当時、東京 RC は発足して3年目でしたが、関東大震災際に対する、RI と世界のロータリアンの友情と援助が、東京 RC のロータリアンに大きな影響を及ぼしたことをご存知でしょうか？震災直後の9月4日には RI 会長「ガイ・ガンディカー」からはげましの電報が、更に、その翌日には、RI から25,000ドルを、震災復興資金として送る旨の通知が届きました。

この義援金は、国際理解と親善のための基金として貯めていたアーチクラフ基金(現在のロータリー財団基金の前身)を取り崩したものであるという説と、RI の災害基金から支出したという説がありますが、いずれが正しいか不詳です。

これが呼び水となって、世界各国の503クラブからの分を含めて、合計89,800ドルの義援金が寄せられました。東京 RC はこの義援金で、東京と横浜の小学校188校への備品寄贈、東京孤児院の新築、殉職警察官遺族の援助、木下正中会員の産科病院の再建事業を行いました。東京孤児院は翌年完成し「ロータリーの家」と呼ばれていましたが、第二次世界大戦で焼失して現在は残っていません。そして、東京 RC は、このロータリーの友情を契機にして、今までの月1回の例会を、毎週開催するように改めたとされています。

昔は、「天災は忘れたころにやって来る」と言われていたが、今はいつどこで災害が起こっても不思議ではない時代になっています。世の中の情報量も増え、豪雨などの高い発生確率の発表もあり、私たちは常に防災意識をもって、警戒を怠らぬに災害に備える必要があると思います。BCP(事業継続プラン)の活用やハザードマップの確認等、準備を怠らぬに過ごしていただければと思います。

■ 2570 地区よりの委嘱状が届いています。(敬称略)

諮問委員会委員：今泉清詞、立原雅夫、相原茂吉

ロータリー財団監査委員会委員：西川孝博

国際奉仕委員会委員：栗原雄一

青少年交換委員会委員：須賀昭夫

ロータリー米山記念奨学統括委員会推進委員会委員：山崎共子、京野弘一

《ポリオ撲滅 彩の国チャリティークラシックカーラリー》

橋本和久様(大宮 RC)



昨年に引き続き、10月23日(日)に大宮氷川神社を出発し、川越の古い街並みを通り、秩父ミュージックパークを経由し大宮に戻る約200kmのクラシックカーラリーを開催します。大宮と川越と秩父の観光協会が連携し、ポリオ撲滅を広域にわたってPRするクラシックカーラリーです。ご協力のほど、よろしくお願いします。

幹事報告

2022-23年度 幹事 野溝 守



配布物：会報、本日の卓話のパフレット(3種類)
地区より、10月16日(日)開催の「秩父鉄道SLパレオエクスプレスに乗ってポリオ根絶キャンペーン」のパフレット、申し込み案内が届いています。ご興味のある方は幹事まで。

委員長報告

○令和3年度の収支決算について

小高章前会長



本日、臨時理事会を開催し、令和3年度の収支決算について、8月23日に受けた監査に基づき、本年度の理事に諮りご承認をいただきました。これを基に10月25日の年次総会にて皆様にご報告します。

○2570地区ロータリー米山記念奨学統括委員会

山崎共子委員



8月28日に行田の「さきたま古墳」にて奨学生の研修会が行われました。参加人数は30名ほどでした。メンバーの中村住職の真観寺で埴輪作りのあと座禅と仏教についてのお話などの研修を行いました。奨学生にとっては日本の良き文化を学ぶ有意義な研修となりました。

○次週卓話：職業・社会奉仕委員会

八木拓也委員長

第2570地区奉仕プロジェクト統括委員会の五十幡委員長にお越しいただき、「ロータリーの奉仕とは」というテーマで卓話をさせていただきます。

ニコニコボックス(洞井信彦委員)

- NPO 法人 WELgee 代表渡部カンコロンゴ清花様、本日の卓話よろしくお祈り致します。(会長/幹事/西川/鈴木(壮)/西澤/小杉/齊藤(智)/山田(和)/八木/青柳/吉澤/水村/小谷野)
- 大宮ロータリークラブ橋本和久様、星野晃一郎様ようこそ。楽しんでいって下さい。(会長/幹事)
- 所沢ロータリークラブ鳥居由美子様ようこそ。楽しんでいって下さい。(会長/幹事)
- 今年も10月23日にポリオラリーを開催します。どうぞよろしくお祈り致します。(橋本和久(大宮 RC))
- 10月23日クラシックカーラリーよろしくお祈り致します。(星野晃一郎(大宮 RC 会長エレクト))
- 所沢 RC が休会ですので、メーキャップさせて頂きました。よろしくお祈り致します。(鳥居由美子(所沢 RC))
- ロータリー財団奨学友平和フェロー委員長、鳥居様ようこそ川越ロータリークラブへ。楽しんで行って下さい。(島村/吉澤/京野/岩堀)
- 本日の求一朗展。ご多忙にも拘らずどうもありがとうございます。(相原)
- 妻の誕生日に素敵なお花を頂き、ありがとうございます。(芳野)
- 気温が下がり、すっかり秋めいた陽気になり体が楽になりました。このままでいて下さい！(山田(哲))

合計 33,000円

出席報告(鈴木健二委員)

卓話

○講師：渡部カンコロンゴ清花様(NPO 法人 WELgee 代表)



本日は、「難民」の潜在力を活かすというテーマで卓話をさせていただきます。皆さんは、「難民」と聞いたとき、何が浮かびますか？今は、連日テレビで流れているウクライナの印象があると思います。現在、ウクライナの難民の数は1,000万人を超えています。日本には1,700人のウクライナの難民が暮らしています。世界の難民の状況は、2022年現在で1億人以上

になっています。「難民」と言っても、実は様々な立場の人がいます。ウクライナのような特例受け入れや、日本政府に難民指定された「認定難民」、難民認定のための申請をして結果を待っている「難民認定申請者」など様々です。この中でも、日本にいるのに宙ぶらりんな「難民認定申請者」が、圧倒的に人数が多いです。それでは、なぜアジアの島国の日本に、わざわざ飛行機乗ってまで来る難民がいるのかと思いますか？難民の多くは母国に色々な事情で居れなくなり、とりえず短期滞在のビザを色んな大使館に申請しています。欧米諸国に申請してもなかなか取得できず、最後に申請した日本の90日とか30日とかの「短期滞在ビザ」で来ている人が多いのが現状です。日本に来た「短期滞在ビザ」の難民は、このままでは90日とか30日とかしか日本に居れないので、難民指定を受けるために、品川にある出入国在留管理庁(入管)に行きます。毎年、難民の数は増加傾向にありますが、2021年度を例にとりますと、13,516人の申請者に対し、難民認定を受けることが出来た人は、たったの74人です。2020年度のG7諸国の難民認定率をみますと、1位のカナダの55.2%、2位のイギリスの47.6%などと比べると、日本はなんと最下位の0.5%です。来日した難民申請者にとって唯一の希望の道は、「滞在する許可を更新し続け認定を待つ」しかありませんが、難民認定の結果までで、平均で4年4か月かかっているのが現状です。「本当に0.5%を目指す道しかないのか？」とアフガニスタンからきた青年に問われたことがありました。そこで、この現状を解決する方法が無いのかと、企業で働く人たちや弁護士さんや学生たちなど色々な人たちと話し合いを始めました。その話し合いの中で、難民の中には、4か国語が話せる人とか、ジャーナリストとか、教師とか、医師とか、弁護士とかいて、ユニークな人材の「宝庫」であることが分かりました。半数以上の人が大学・大学院卒業業者です。私たちは、色々な話し合いの中で、難民の多様な持ち味を生かせないのは、本当にもったいないと感じるようになりました。そこで、私たち NPO 法人 WELgee では、「難民申請者」が日本企業で働くためのプログラム(Job Copass)を作りました。「難民申請者」がと言うところが大事で、「認定者」は政府が様々な支援をしてくれますが、「難民申請者」にはそれがありません。Job Copass は、ただひたすら難民認定を待つのではなく、就職を切り口として、「キャリア」を通じて活躍の道を切り開きます。安心して日本で暮らし働けるビザを、就職を契機に取得するというプログラムです。日本の企業で活躍できるまで徹底して伴走していくのが、私たちがやっていることです。具体的には、キャリア教育やメンターシップ、スキル開発などのキャリア伴走を行っています。これまでに、19名の人が就労でき、インターンシップ2名、在留資格変更5名に繋がりました。ヤマハ発動機などの様々な企業で活躍しています。企業にとっても、難民を受け入れることで、社員の意識改革、ゼロイチ事業への挑戦、海外事業の加速化、サービスの革新など、企業の挑戦を後押しすることができます。皆さんも私たちと一緒に挑戦(難民人材の雇用、個人でマンスリー寄付サポーター、法人スポンサー)していただけると嬉し

※詳細は HP をご覧ください。

